

7月下旬から野生動物に利用されるウワミズザクラの実が今年は凶作です。5・6月の降水量が少なかったことも影響しているのでしょうか。例年8月に入ると色とりどりの実をつけ、しばらくするとテンなどの野生動物に利用されていました。ウワミズザクラを利用している野生動物の食物事情が心配ですが、同じ様に利用されるミズキの実は8月上旬の時点で豊作です。

晩夏から、多くの野生動物が冬支度へとシフトしていきます。食物が獲やすい場所へ移動するもの、たくさん食べて体に脂肪を蓄えるもの、一冬分の脂肪を蓄えることができず食物を貯めるものなど、食物が少なく厳しい冬を乗り切るために、様々な方法でそれぞれの秋を生きます。

冬支度に入る野生動物の重要な食物にドングリが挙げられます。言い換えれば、ドングリの実りが野生動物に様々な影響を及ぼすということです。現にツキノワグマは、ドングリが凶作の年には代替食物を求めて行動域を拡大すると言われています。

表は、過去3年分の豊凶調査の結果と、東京都でのツキノワグマの出没・目撃情報を照らし合わせたものです。

奥山のブナ、ミズナラのドングリの実りが少ない年は、9月～11月の人里への出没が増えていることが分かります。

今年で5年目となるドングリ類の豊凶調査は、本市の森のドングリ類の実り状況を公開し「誘引物（放置果樹、廃棄農作物、生ゴミなど）の除去、農耕地等への電気柵などの設置と管理、野生動物の侵入や一時的な定着を防止するための耕作放棄地などの整備や藪の刈払い、本市に訪れる観光客に向けた野生動物への餌付け禁止、入山時の準備」など、人への注意喚起に役立てる目的で実施しています。また、森の子コレンジャーにもドングリを通して自然の営みを学んでほしいと考え、1地点において共に調査しています。野生動物と人の軋轢が生まれている現状を知り、自分たちにできることを考え、自然や地域のために学ぶ次世代となってくれることを願っています。

今年の市内のドングリ類の豊凶状況は「森林レンジャーあきる野新聞9月号」で発信していますのでご覧ください。全国の状況は環境省のホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/ketujitu.pdf>) で公開されています。（加瀬澤）

表 あきる野市の過去3年分の豊凶調査結果

	ブナ	ミズナラ	コナラ	クリ	東京都におけるツキノワグマ出没・目撃件数 (9～11月)
H26年	凶	不	不～並	不～並	62
H27年	凶	並～豊	並	不～並	10
H28年	凶	不～並	並	並	83